

事業名

【「中海の魅力ある文化」再発見・体験・創造事業】

取組の背景

大型公共事業中止以降、自然再生を目標とした活動や水質・湖岸整備・沿岸農地の排水などに行政・専門家による施策が進められ、中海へも関心が向きつつあるが、斐伊川・日野川水系(宍道湖・中海)をひとつの圏域と考え、県境を低くし中海への関心を両県協働事業で同時に行う。

事業概要

中海へは行政・専門家は関心を持っているにも関わらず、県民の関心が低いのが現状であり、斐伊川水系・宍道湖・中海と関連付け、関心を引くことが必要であるため、生物の養殖・収穫による環境教育、オープンウォータースイムの開催、伝統食文化の伝承などを通じて、世代交流、全国を視野に入れた地域間交流事業を開催する。

実施団体と行政それぞれの役割分担

島根県水産センター
島根県・鳥取県
松江市東出雲地域振興課
松江市生涯学習課
松江市教育委員会
本庄公民館

技術指導・施設開放と当日参加
広報・学校への事前説明 と当日の作業補助
地元住民学校への協力要請(東出雲おやじの会)と当日参加
東出雲の3つのエコクラブの参加募集と当日の作業補助
本庄小学校でのサポート作業補助
当日参加

鳥取県水泳連盟
自然再生センター
中海再生プロジェクト
東出雲おやじの会
東出雲のご婦人方

ウォータースイムの審判及び運営協力
スジアオノリの養殖とゴズの昆布巻き
オープンウォータースイムと中海の歌
ゴズ釣りの釣り竿作りと釣り指導
ゴズの調理法指導

主な事業内容

- ① 環境教育スジアオノリの養殖と板ノリ加工&食の提供(試食会)
スジアオノリの養殖と刈り取り、そして食の体験を通し、資源循環と水質浄化に果たす生物の役割を理解して、小学生との環境学習の取り掛かりとし、生育させた、スジアオノリを試食した。スジアオノリの葉作りを行った。
- ② 中海オープンウォータースイム2012
海、湖、河川などで3~10kmといった長距離で競う「水泳のマラソン」です。今年も米子湾内で3kmの競技を定員100名で開催した。
- ③ 伝統食文化の伝承及び調理方法の映像記録
ゴズの釣りから始まり、保存できるように昆布巻きに調理加工する一連の作業の流れを体験。調理方法をDVIにまとめ広く周知した。
- ④ 「中海の歌」「中海の作文・論文」コンクール
参加者に①~③のそれぞれの活動をよく理解してもらい、中海の現状認識とこれからの中海の在り方を考えてもらうため、歌・作文・論文などの募集した。

事業の主な成果

	参加人数	マスコミ報道例(別紙①)	アンケート
①スジアオノリの養殖	下意東・・50名 本庄・・17名 (4年生)	中海TV放送 山陰中央新報	別紙②
②ウォータースイム	114名(男性93名、女性21名)	中海TV放送 山陰中央新報	別紙③
③伝統食文化	ゴズ釣り・・85名 ゴズ調理・・60名	NHK松江放送 TSK放送 中海TV放送	別紙④
④歌・作文 論文コンクール	歌・・応募者21名 作文・・2名 論文・・4名		

工夫・ノウハウ

- ① 両県担当課同行してもらい、企画・計画等から説明するのに信用性が増した。
- ② 地域自治力の向上を図り事業を展開するため松江市の役割も大きかった。公民館・地域のおやじの会は具体的な作業部分でご協力頂、スムーズな事業展開ができた。とくに東出雲のおやじの会は、釣り場の情報、釣り竿の作成、調理作業の円滑化一式をご協力いただいた。
- ③ 両県のNPOのそれぞれの発想力・実行力を発揮し両県の県境を低くし交流しながら「中海の魅力ある文化」の再発見・体験・創造を四者の協働事業で実りのある事業とした。
- ④ 県境を超えて参加することがないので相手の立場でそれぞれの事業へ参加し感動を共感でした。

今後の活動方針

中海での活動は両県の県境を超えた両県が協働し共感し、情報を共有しながら中海の自然再生を考える。学校教育の中での環境学習の積極的展開も必要。